

中2進級ガイド

新中2生の心得

『部活との両立』。美しいことばです。しかし、中学校に入学してからのこの1年間でほんとは両立が難しいことを感じている人もいないのでしょうか。そこを真剣に考えると、中2の勉強は始まります。

● 心得1 勉強中心、最も大切なのがこれだ

両立という、誰でも無意識に「勉強 50%、部活 50%」と考えます。しかし、多くの中学生は部活の方をより楽しく感じるので、五分五分のつもりでも実際には部活優先になってしまいやすいのです。

口でいうほど「両立」は簡単ではありません。部活で疲れても勉強はしなければならぬし、友だちとの楽しい時間を自ら断ち切って、机に向かうために帰らなければならない時もあります。そういう意志を持つには、あらかじめ勉強:部活=7:3ぐらいの覚悟で臨むしかありません。「勉強中心」とはそういう意味です。

● 心得2 譲れない時間

自分の意思でする勉強の核になるのが、塾の英語・数学・国語の通常授業です。この時間を大切にしてほしいと思います。欠席・遅刻をしないのは当然として、せっかくがんばって出席

する時間を最大限に生かすために、授業に集中することと宿題を必ずやることを自分自身のルールにしましょう。たとえ疲れて目を開けているのがやっとという状態でも、教室の自分の席に座って、なんとか勉強しようとする気持ちが必要です。

簡単に妥協しないこと。これを守るだけで、両立という大きな目標にぐっと近づくことができます。

● 心得3 高校について考える

とはいっても、勉強を苦しい顔をしてやっているばかりでは学習効果も挙がりません。積極的な気持ちで取り組んでほしいものです。そのためにいちばん効果があるのは、目標を持つことです。高校進学で「こうしたい!」という明確な目標を持てれば、勉強の意欲も自然に湧き、教科の本来のおもしろさも出てくることでしょう。そうなれば学力は伸びます。まず、高校に興味を持つこと。塾で提供する資料などを見て、自分の将来について考える1年にしましょう。

数学は受験直結単元が目白押し

中1では、中学→高校と続く『数学』の世界で様々なことを学ぶためのいちばん基本となる計算に習熟することが最大のテーマでした。2年でも、まだそういう部分は残りますが、それよりも一歩進んだ高校受験で直接出題される重要事項が次々と登場します。なかでも図形は要注意です。図形でつまずいて数学に苦手意識を持つ人が、残念ながらあとを絶ちません。逆に、ここをうまくクリアすると、順風に乗って受験学年に入っていくことができます。重要な岐路が目前に迫ってきました。

● 計算力は大丈夫?

2年生の数学の内容をこなしていくには、1年で学んだ「正負の数」「文字式」「方程式」の計算が、すばやく確実にできなくてはなりません。数学の問題の多くは、そのような計算の基礎技術を用いて最終的な答えが導かれるようになっているからです。毎日の教室でも、先生は「式が立てば後は自動的に解答が出る」のを前提に、今までより速いペースで授業を進めていくようになります。

そこで改めて問います。「キミは中1レベルの計算に100%の自信をもっているか?」

イエス!と言い切れない人は、数学苦手予備軍です。このまま放っておくと、すぐに授業が苦痛になり、1年後には計算ミス多発症に苦しむことになるでしょう。結局、ケアレスミスが多いことをいつまでも嘆いている人は、中1の学習内容を消化し切れていないのです。

まだ間に合います。『式の計算』は、計算力の整備や建て直しに絶好の単元です。ここでしっかりと勉強しましょう。

● 文章題は日本語 → 数学語の翻訳だ

連立方程式などで例年多くの人々が苦しむ文章題は、ふたつの部分からできています。

1つは立式。日本語で手短かに書かれた文章から必要な情報を得て数式に表現するステップのことです。数学の問題ではムダなことは1つも書かれていないので、ここでは丁寧に正確に読み取って条件を整理することがポイントです。内容が日本語のレベルで読み取れていれば、それを数式に翻訳することはさほど難しくありません。

これまで、応用問題で出会った文章題で苦戦した人は、「まず日本語をきちんと理解すること」を考えてみましょう。

もう1つは計算。これは前項で述べたとおり、基本技術を練習量で磨いてさえおけば、誰でも100%レベルに達することのできる分野です。「式さえ立てば大丈夫」という自信があると、文章題から受けるプレッシャーはかなり軽くなります。

● 少ない知識を使いこなす[図形]

図形を苦手にする人は多いが、この分野では、図形の性質などの覚えなければならぬことは実に少ない。英語や国語の語彙の数なんかと比べたら、話にならないほどわずかな量である。そのわずかな知識をさまざまな問題に合わせて活用していく知恵を蓄えるのが図形の勉強です。

こういう場合に大切なことはなんなのでしょうか。

まず、基本となる各図形の性質などについては完全に理解し

てください。

少しでもあやふやなところがあったら、とても多彩な使いこなしの術を身につけることなんてできないからです。ここでは、学校の教科書レベルのことを120%理解するのがいい出発点になります。

あとはできる限り多くの問題を解いて経験すること。数学は論理的な思考の科目ですが、思考といってもその多くの部分は経験と記憶に支えられているものです。図形のような「目で見える分野」では経験値と実力がだいたい同じぐらいになります。苦手だ、と嘆いている暇に問題を解きましょう。わからなかったら質問してきちんと理解できるまで解説してもらいましょう。

◆ 苦手克服のヒント! 固まらないで動いてみよう

数学が苦手な人には、問題を前にすると固まってしまう傾向があります。これは剣術で「居つき」といって、いちばん陥ってはいけない状態です。緊張やためらい、気負いなどが原因です。数学の場合は「まちがったことをしたくない」という気持ちが強くて働いているのかもしれない。

解ける人はもっと気楽にやっています。あれがダメならこれで、と試行錯誤を繰り返すうちに正解に到達するのです。いつもこのようにしていると数学の時間の思考密度が濃いから、当然解答への筋道を発見するのも速くなります。

ダメもとで次々と手を動かしてみることを心がけましょう。

一気に表現の幅が広がる! 英語で遅れをとるな

ゆったりと流れた1年の英語学習も、ようやく動詞の過去形に到達しました。ここまでくると、英語も随分英語らしくなります。おもしろくなってきた人も多いのではないのでしょうか。

さて、2年では、毎月2単元ずつのペースで新しい表現の形が出てきます。その中には、中1のときとはまったくちがう密度で、小さいけれど重要なことばの知識がいっぱい詰まっています。のんびりしている暇はありません。今月も来月もそして再来月も、気合を入れて新しい知識や言い回しをせっせと自分のものにしていきましょう。

● 例文暗記を怠らない

語学の勉強では「慣れること」「親しむこと」がとても大切です。英語は普段の生活圏で使われていることばではないから、慣れるためには意識的に努力する必要があります。

一見地味な勉強ですが、意外に効果的なのが例文暗記です。例文には情報が詰まっています。ポイントとなる構文や表現だけでなく、それを取り巻く単語が文のカタチを成して配列された全体を覚えるので、英語学習の中でカギとなる語順感覚も知らず知らずのうちに身につくし、頻出語が自然に覚えられます。

● 問題をやり抜いてもものにする文法事項

矢継ぎ早に出てくる新しい文法事項。2年の英語には、ちょっとまごまごしていると、あっという間に手に負えなくなって未知の表現の渦に呑み込まれてしまう危険があります。それを防ぐには、1つ1つの文法事項が出てきたそのときに、たくさん練習して自分のものにしてしまうしかありません。具体的には、塾のテキストを一題残らずやるようにしましょう。もしもどこかでペースを失って未消化の分野が溜まってしまったときには、夏期講習と冬期講習がゴールキーパーの役割を果たします。ここで行われるまとまった復習で体勢を立て直すようにしましょう。

● 例文で生き生きとした和文を試みる

1・2年の英語は文法が主体ですが、高校入試で中心になるのは文章問題です。3年になるとこれまで身につけてきた文法や語彙の知識を使って、文章を読む力に仕上げていく勉強が中心になります。そのことを今から意識しておいてください。大切なのは、英語が生活の場で使われている生きた言語であると実感することです。そのために、文法の問題等が出てくる短い例文や問答を見たら、正解とは別に「これはどんなときに使われることばだろうか」「日本語ならみんなこういうとき何と言うだろうか」と考えてみることをお勧めします。長文読解で大切なのは、わが身にひきつけて理解する想像力なのです。

◆ 苦手克服のヒント! 生き生きとした和文とは…

簡単な例をひとつ

“Can I use your pencil?”

“Yes, you can.”

これを「私はあなたの鉛筆を使うことができますか。」「はい、あなたはできます。」と直訳してみる。だが、日常生活でこんなことを言う人はいないでしょう。

そこで、どんな状況でこのことばが交わされるかを考えてみると、「君の鉛筆、使ってもいい?」「いいよ。」となります。

canには「してもよい」という許可の意味があることをたとえ知らなくても、ちょっとだけ想像力を働かせれば本当の意味をとらえることができるでしょう。

国語 一読解・記述力アップは今年が勝負一

最近の入試では、国語だけでなく全科目を通じて読解力と表現記述力が重視されていることは知っているでしょうか。もともと国語は、入試で英語や数学と同じ配点があるから、いまや英数以上に重要な科目になったという見方もできます。読解や記述の力が足りないと、3年になって受験を意識したとき大きな負担になってしまいます。全科目が受験モードに入る前の今年1年のうちに国語力をぐんと伸ばしておきましょう。

● 良質の演習に毎週欠かさず取り組む

英語や数学は自習用の材料が用意しやすく、家でやる分の勉強も重要だが、国語は事情が異なります。読解と記述の練習をしようにも、自宅でよい勉強をする環境が整わないのです。いちばん困るのは、答え合わせのときです。問題集の簡単な解説では選択肢がしぼれる理由なんてよくわからないし、記述だと○か×かすら決められないことも珍しくありません。

そういう事情があるので、国語の勉強は英語や数学以上に、塾の通常授業が命綱という感じになります。他教科に比べて軽く考えている人がときどき見受けられますが、とんでもない話です。授業では毎回良質の教材を使って演習を行い、生徒たちの答えを先生が添削し、メンバーに合わせてわかりやすく解説します。国語こそ絶対に休まず遅刻せず、心して毎週出席するようにしましょう。

● 授業での集中度で国語力の伸び率は決まる

国語の実力をどこまで高められるかは、一回一回の授業にどれだけ真剣に参加したかにかかっています。

「その日の長文問題を集中して読む」→「設問も注意深く必ず最後まで読んで、各問いに知識と思考を総動員して答える」→「記述は絶対を書く」→「先生の解説は、自分対先生の1対1の対話のつもりで聴く」→「納得がいかない部分は質問して食い下がる」

このような積極的な姿勢を貫けば、ほどなく実力はメキメキ伸びてくるでしょう。

国語では英語や数学とちがって、同じパターンで解けるといような分類可能で便利な「型」はありません。できるのは、自分の側の「読解のフォーム」「解答作成に至る手順」を、トレーニングを重ねて作り上げることです。授業はそのための場なのです。

● ことば調べは遅いようでも確実に効果が出る

知らない言葉が出てくるといつも携帯している小さな辞書でさっと調べる生徒がいます。また、反射的にどういう意味か質問してくる生徒がいます。

そういう習慣が身につけていると、国語力は確実に向上します。ただし、今日始めて1ヵ月後にガラッと変わるというものではなく、半年か1年経ってふと振り返ったときに、「そういえば漢字の書き取りが出来る率が高くなった」とか「最近、長文でわからないことばが減ったかも」という形で進歩を自覚するといったものなのです。

そんな先の長い話、というなかれ。2年生になる今始めれば、余裕で受験学年に間に合うではありませんか。面倒がついて成就できることはこの世に少ないものです。今からぜひ多くの人に始めて欲しいと思います。

◆ 苦手克服のヒント! 小説を読もう

自宅でできる国語力対策として読書があります。2年生のうちなら、とんでもなく長い小説や難しい小説を時間をかけて読むこともできます。感想なんかは必要ありません。ただ読んで楽しむだけで、素晴らしいトレーニング効果があることを保証します。以下ほんの数冊ですが、紹介しておきます。もちろんこれ以外におもしろいものはいくらでもあります。

- ・ドストエフスキー「罪と罰」「カラマーゾフの兄弟」
- ・トールキン「指輪物語」
- ・スタンダール「赤と黒」
- ・トーマス・マン「ブッデンブローク家の人々」
- ・マーク・トウェーン「トム・ソーヤーの冒険」
- ・アレクサンドル・デュマ「モンテ・クリスト伯」
- ・夏目漱石「こころ」
- ・北杜夫「楡家（にれけ）の人びと」
- ・司馬遼太郎「竜馬がゆく」

株式会社 栄光発行「2010 進級ガイドブック中1⇒中2」より